

1

出発前の準備

海外赴任中、海外出張時の安全を確保するためには、どうしたらよいのでしょうか。まずは安全対策の基本理念を知ることと、事前の情報収集が大切です。

1-1 安全対策の3つの基本理念

①自分と家族の安全は自分たちで守る

治安が悪く、警察でさえ信頼性に問題がある国・地域もあります。特に家族と一緒に海外生活をする場合は、家族全員が安全に対する意識を持つことが大切です。

②予防が最良の危機管理

被害に遭ってからでは遅いのです。予防のための努力と費用は惜しまないことです。

③有事の適切な対応

万一、事件・事故に巻き込まれた場合でも、そのときの対応次第で被害を最小限に抑えることはできます。どのような対応をとればよいのか考えておくことが大切です。

以上3つの基本理念を踏まえた上で、安全のための3原則（目立たない、行動を予知されない、用心を怠らない）を意識して行動します。

1-2 赴任前・出張前の情報収集

渡航先の治安状況、医療面などの情報をインターネット、テレビ、新聞などで調べる、あるいは会社の担当者や前任者に聞くなどして十分な情報収集をしておきます。

外務省のホームページには各国の社会・治安情勢、医療事情など多くの情報が掲載されていますので、一度アクセスしてみることをお勧めし

ます。

社会・治安情勢	政情は安定しているのか、反政府活動などがないか、対日感情は良好か、事件・事故の発生状況、特に日本人が巻き込まれた事例がないか
衛生・医療事情	その地域でよく発生する風土病や感染症はないか、医療制度やレベルはどうなのか
自然環境	地震、洪水、竜巻など、こういった災害が発生しやすいのか、どのような対策が必要か
文化・宗教・法律	現地に特有の文化や習慣はないか、宗教上の慣習、タブーはないか、最低限知っておくべき法律はないか
交通事情	交通法規、マナーの良し悪し、保険関係はどうなっているか

1-3 一般的な注意事項

- ▶ パスポートは3枚くらいコピーして、家族と職場に1枚ずつ残しておきます。自分でもコピーを持っていると便利です。
渡航先でパスポートを紛失したりした場合、在外公館に届けて再発行してもらうことになりますが、コピーを提示することで再発行が早くなることもあります。
また、写真の予備も4～5枚（または写真データ）用意しておきます。渡航先で例えば、パスポートの更新やビザの延長、各種IDカードの作成など写真が必要になることがよくあります。
- ▶ 意外に間違えるのがビザの要・不要です。相手国大使館、領事館のホームページで確認しておきます。渡航目的によってビザの要・不要や種類は違うため注意しましょう。
- ▶ 渡航先の国の為替制度をよく調べておきます。発展途上国などでは、しばしば内容が変更されることがあります。例えば、持ち込み（出し）金額の限度、両替可能な通貨の種類など事前によく調べておきます。

- ▶ クレジットカードは万一の場合を考えて2種類以上準備し、カード番号とカード会社のコールセンターの連絡先を控えておきます。紛失・盗難などの場合には、カード会社にすぐ連絡してストップしてもらいます。
- ▶ 必ず保険に加入します。自分自身の海外旅行保険はもちろんですが、必要に応じて携帯品にも保険をかけておきます。
- ▶ 持病があり薬を服用している場合は、病状と薬についての英語（または現地語）の説明文を用意しておきます。
- ▶ 日本国内、現地の緊急連絡先のリストを作成し、自宅、職場それぞれに残しておきます。出発前までに現地の連絡先が分からなければ、到着後すぐ確認します。
- ▶ 出張・旅行など3カ月未満の短期滞在の場合は、外務省の安全情報配信サービスシステム「たびレジ」に日程や滞在先・連絡先を登録しておきます。任意登録ですが、登録しておくことで滞在先の海外安全情報や緊急事態発生時に在外公館などから緊急情報を受け取ることができます。なお、3カ月以上滞在する場合は「在留届」を提出する義務があります。
- ▶ 航空機での移動はなるべく直行便を利用します。荷物を紛失する可能性は主に荷物の積み替え時が多いためです。また、紛争当事国の航空会社は利用しないようにします。テロ等に遭遇するリスクも少なくなります。